

今こそメイド・イン・ジャパンの ステータスを守るべき

三菱電機の鉄道車両関係の過去35年以上にわたる検査不正が発覚しました。

元来、日本にはJISマーク(日本産業規格)があり、その品質管理を基盤としたメイド・イン・ジャパンの高品質と信頼性の高さが世界を圧巻し、我が国を世界第2位の経済大国に押し上げたと言っても過言ではありません。

ところが、多くの企業の検査データの改ざんや、今回の三菱電機の検査不正などが度重なり、メイド・イン・ジャパンの名声と品質における信頼性が大きく失墜しています。

日本企業はそのことを肝に銘じて、今こそ綱紀粛正をし、原点に立ち返って品質管理を徹底しなければならないと思います。三菱電機の件も、引責辞任した杉山武史社長1人に関わることでなく、現場における職場管理の問題が大きいのではないのでしょうか。社員全員が自己管理を徹底し、こうした不正がまかり通ることがないようにしなければなりません。

こうした体質が蔓延していくことは世界に日本企業全体の恥をさらすことになるのです。今こそ日本の産業全体が信用失墜を重ねることなく、経済産業省も一体となって原点に立ち返り、各社の製品における品質管理を徹底しなければなりません。

今話題の医療に例をとれば、製薬や医療における質の低下を防ぐためには、各部門における教育の質の向上を徹底することこそが大きな課題となるはずですが。

つまり大切なのは人づくりであり、社員教育の徹底こそが急務なのではないでしょうか。

さらに監査システムの問題です。各企業から指名された監査法人が余りにも甘い監査をしている。今こそ監査の質そのものを向上させなければならないと思います。

各分野における質の向上こそが、メイド・イン・ジャパンの復権につながるはずですが。

人材の質の向上を図り、自己管理を徹底し、信頼できる品質を社会に提供する。これこそが日本企業が再び信頼を勝ち取り、世界を凌駕できる製品を作り出す原点となるのです。

数年前に米国で上場していた東芝が粉飾で大きな信頼の失墜を招きました。これでは米国市場から日本製品が排除されても仕方ありません。

品質管理と、そこに関わる人間すべての自己管理を徹底し、人の質を向上することこそが企業そのものの信頼につながります。経済人として、企業人として、社長を筆頭に全ての人材がメイド・イン・ジャパンの再評価を得ることが、日本の次代の成長につながるのです。

本誌主幹 大中 吉一